

教育
相談室

カウンセラーの窓から

子どもが不調を訴えた時に

担任の先生に勧められ、ヒロ（仮名）君のお母さんが、相談室にやってきました。

「今朝もお腹が痛いと言いましたが、行かせます。お世話をおかけしますが、宜しく願います」

連絡帳にそんなメッセージを書いてヒロ君に持たせることがたびたびあったからです。

「病院で検査もしましたが、何ともないと言われたので、それ位なら行きなさいと強く言っていました。私も仕事に行かないといけません。毎日疲れています」

そうやって、お母さんは、最近、祖父母たちと別居したこと、仕事も変えたばかりで、休みを取りにくいことを打ち明けると、気持ちが少し楽になったようで、表情も和んでき

ました。

自分自身が新しい環境に慣れるのが一杯で余裕がなく、まだ小学二年生のヒロ君に、知らず知らずのうちに我慢を強いていたのかもしれないと考え、朝から命令口調で接することが多かったことを、お母さんは反省しました。

転居、転校、身近な人との別離といった環境の変化には、年齢の小さい子どもの方がより適応が早いと言われます。

ただ、子どもによっては一時的に頭痛や腹痛、だるさを訴えて登校を渋ったり、涙もろくなったりすることがあります。いつもと違う様子を感じたら、それは、我が子が発する心のサインだと早めに気づくことが大切です。何か不快な事があると、泣いて周囲

に知らせた赤ちゃんの頃や、怖い、悲しい、不安などの感情が押し寄せ、大泣きした幼児の時期に、親が抱っこしながら「どうしたの」と声をかけると、安心したように泣きやんだことは多かったはずで

子が成長していく過程の中で、自信をなくし不安になった時、ありのままを受容してくれる親の顔を見、声を聞くことで、子どもは安心して踏ん張れることがあります。

「多少つらいと思って我慢してやってみる」という気持ちは、我慢してやりなさいと言いつつ聞かせて育つものではなく、こうした親子のやり取り、すなわち愛着の関係を基礎にして育まれていくのです。

「今日からでも遅くありません。出来ることから始めましょう」との提案に、お母さんは、朝、ちよつとの間ぎゅつとヒロ君を抱っこしてみることを思いつきました。「さあ今から、面白くって楽しい場所に行くよ」という思いが膨らむように。

「今日は給食当番を張り切ってやっていました」という先生の言葉を聞いたお母さん、もうしばらくはスキンシップの時間を続けてみようと思いました。（T・S）

鯖江市教育委員会生涯学習課
TEL 5312256

全席シートベルト着用推進企画

明日を担う青少年及び乳幼児の命を守るために、大人の責務として自動車等の乗車では後部座席のシートベルト着用を推進しましょう！

1. 現状 平成27年度の全国調査において後部座席シートベルト着用率、チャイルドシート使用率が福井県は最下位

	後部座席シートベルト着用率		チャイルドシート使用率
	高速道路	一般道路	
青森	94.0%	鳥取 51.1%	山口 79.5%
	∫	∫	∫
平均	71.3%	平均 35.1%	平均 62.7%
	∫	∫	∫
	福井 40.8% 最下位	福井 17.2% 最下位	福井 44.4% 最下位

2015 警察庁、JAFのHPより抜粋

はくみ

家庭教育を考えるシリーズ

発行
鯖江市教育委員会
鯖江市社会教育委員会
青少年健全育成鯖江市民会議

協力
丹南青少年愛護センター鯖丹支所

50号

人とのかかありが 子どもを育てる



北中山小学校『合宿通学：手作りうどん製作中』

鳥羽小学校『めがね王国・鯖江の子』



中央中学校『朝のあいさつ運動』

鯖江幼稚園『友達と一緒に泥んこ遊び 楽しいね!』



子育ては、とても難しいことなのに、どうしたら「よい親」になれるのか、どんな親になるべきなのか、教えてくれる人は少なかつたように思います。子育てに悩んでいるのは、あなた一人ではありません。子育てを楽しみむべいらしいの明るくオープンな気持ちでいたいものです。



我が子が大事。この気持ち、どうやったら子どもにも伝わるのだろうか。

抱きしめてあげるといいって聞いたよ。

ちゃんと育てたいと思って厳しく躾けているけれど、これでいいのかな。

「ちゃんと」ってどんなこと？

子育て

子どもが喜ぶからテーマパークに連れて行っただけ、あれって「ふれあい」って言ったのかな。

あせつちやダメなのかも。

自然の中で一緒に体を動かしたら、気持ちがつながった気がした。

生まれる前は、元気で明るく育ってくれればいいとだけ祈っていたのに。

大切な我が子。

誰も立派に育てたいと思っただけで子育てしていません。それで、親の思い通りにならない我が子を腹立たしく感じたり、情けなく思ったりすることもあると思います。そして自分のやり方に自信を失うこともあるかもしれません。

我が子へ 伝え方がへたくそかもしれないけれど、 心からいとおしいと思っただよ。

涓滴 「じっくり叱って褒める」

子育ては、難しいものです。しかし、日々の子育ての中でも、子育てのちょっとしたヒントを見つけることができます。

意外かもしれませんが、子どもたちが望む大人は「しつかり叱ってくれる人」であり、「いいところを褒めて伸ばしてくれる人」だと言われています。そこで2つの提言です。

風呂敷につつむ



子どもの言動が気になれば、注意します。何回も注意しているうちに、子どもは「うるさいな」と言いはじめ、聴いてくれなくなる場合があります。そんなとき、子どもの嫌な面を「風呂敷に包んで」様子を見るのです。目に付く子どもの嫌な面を風呂敷に包んでしまおうのです。

そして、わが子のいい面を見ていきます。いい面を見続けると、不思議なことに子どもの嫌な面が消えているのです。「落ち着かない子」なので困るということも、「優しい子」「手伝いをする子」等、いい面もあるからと見ていくと、嫌な面が目に入らなくなり、風呂敷を広げてみたら、「落ち着かない子」が「いろいろなものに関心がある子」に見えてくる場合さえあります。是非、試してみたいかがでしょう。

着地点を考えて叱る



子どもたちが叱られて「すみません」といえるようになったら、成長の証でしょう。

叱り方名人に教えていただいた叱り方のポイントは、①説教は3分以内 ②子どもの逃げ道をつくること ③過去にさかのぼらないことこの3つだと言われました。

自分自身の子どもの時代を思い出してみたらどうでしょう。大人の小言を聞きながら「早く終わらないかな」と頭をさげて嵐が通り過ぎるのを待った経験や、「前にもこんなことあったでしょ」と親が言い始めたので、「また続くな」と感じた経験もあるでしょう。子どもも大人も、受け止め方は同じです。

叱ることは大切なことですが、とても難しいのです。冷静さを失い激しく叱ると、大人自身が自己コントロールできなくなり、子どもをつぶしてしまう危険性があります。叱り方名人に習うことは、「叱るときには、どこで振り上げたこぶしを下ろすか、冷静に着地点を考えておく」ということなのです。

「涓滴」とは「しずく」という意味。しずくも集まれば、やがて大河となることの願いを込めて。